

2019年4月7日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「わたしはあの人を…」

聖書：ルカ福音書22:31～34、54～62

ペトロはイエスの裁判を危険を冒して見に行く。あれほどの偉大な業をなし、驚くべき言葉を語ったイエスゆえ、期待は大である。ところが裁かれるイエスは、いつまで経ってもその力を現さない。力ある言葉も発しない。そんな時にある女中から言われた。「この人も一緒にいました」と。ペトロはそれを打ち消し、「わたしはあの人を知らない」と言う。何故ペトロは否定したのか？自分も捕まるとして怖くなったのか？ペトロは以前「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」(33節)と言っている。では何故か？

ここにいるイエスは、ペトロの考えているイエスの姿とは違った。ゆえに「わたしはあの人を知らない」と言ったのであろう。ペトロはイエスに対し、驚くべき御業を行い、力ある言葉を語る偉大なキリスト像としてイエスを見ていた。しかしここにいるイエスは、弱々しく裁かれる惨めな姿に映ったのであろう。期待を裏切られたペトロは、「わたしはあの人を知らない」となる。私たちは、このようなペトロを情けないとペトロを非難する者か？

ペトロは、期待した神の像が打ち砕かれた時、イエスの言葉を思い出す。「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。私たちはこの世に生きる限り神を見ることは出来ない。私たちは常に信仰を脅かす状況に晒されているもの。しかし、私たちがキリストを見失わずに生きるということは、主の言葉を思い出すこと、主の言葉の中に生きることによる。私たちは時に神を忘れ、「わたしはあの人を知らない」と、キリストを否定し、信仰から遠のくことがある。しかしそれでも、イエスはあなたのほうを「振り向いて」あなたを「見つめ」ている。ペトロはそのことに気づかされた時、「激しく泣いた」。イエスの言葉を思い出した時、イエスのまなざしに気づいた時、泣いていい。そこからまた、私たちの新たな信仰の歩みが始まる。

受難とは、「わたしはあの人を知らない」というキリストを否定する世界こそが、キリストにおける受難になる。この世の世界の中でキリストを証し、キリストを賛美し、キリストを生きる社会においてキリストの復活は見いだされていく。私たちの社会は、いまだ受難か？復活が見いだされている社会か？あなたの歩みは、いまだ受難か？復活が見いだされているか？「わたしはあの人を」キリストとして見、キリストとして歩ませて頂きたい。(神谷)